

共同研究

(二〇一三年四月一日～九月三〇日)

人文諸学の科学史的研究

(研究代表者 井上章一、幹事 瀧井一博)

〔共同研究員名〕

今谷明、上島亨、上村敏文、鵜飼正樹、内田忠賢、長田俊樹、小澤実、小路田泰直、斎藤成也、佐藤雄基、関幸彦、高木博志、高谷知佳、竹村民郎、玉木俊明、鶴見太郎、永岡崇、林淳、シルヴィオ・ヴィータ、藤原貞朗、安田敏朗、若井敏明、大塚英志、荒木浩、伊東貴之、倉本一宏

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一三年七月二九日

長田俊樹「邪馬台国論争―語学研究者の役割」
小路田泰直「邪馬台国論争―古代編・近代編」

二〇一三年七月三〇日

若井敏明「考古栄えて記紀滅ぶ」

井上章一「考古学・京都学派のあるゆがみ」

〈第二回研究会〉

二〇一三年九月一四日

鶴見太郎「戦中から出発する『戦後史学』―福本和夫の仕事を中心に―」

今谷明「昭和前半期に於ける日本史学の動向―党派との連関を中心として―」

二〇一三年九月一五日

井上章一「日本の歴史とソビエト史学」
猪木武徳「大塚史学とは何だったのか」

日本庭園のあの世とこの世―自然、芸術、宗教

〔研究代表者〕 白幡洋三郎、幹事 榎本 渉

〔共同研究員名〕

小野健吉、グエン・テイ・フォン・チャー、鈴木久男、多田伊織、田中淡、豊田裕章、錦仁、原口志津子、原田信男、飛田範夫、日向進、町田香、水野香紀、村井康彦、山田邦和、横山正、吉澤健吉、荒木浩、ウィーベ・カウテルト、陸留弟

〔海外共同研究員名〕

蔡敦達、外村中

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一三年五月一二日

白幡洋三郎「本年度の研究計画案」

成果出版についての検討

作庭記資料読み合わせ

〈第二回研究会〉

二〇一三年七月二〇日

横山 正「解説『山水并野形図』、『戸山山荘図稿』」

コメント・蔡 敦達

質疑応答

陸 留弟「露地について」

質疑応答

二〇一三年七月二一日

報告書編集打ち合わせ

怪異・妖怪文化の伝統と創造―研究のさらなる飛躍に向けて―

〔研究代表者〕 小松和彦、幹事 山田奨治

〔共同研究員名〕

アダム・カバット、飯倉義之、今井秀和、香川雅信、木場貴俊、小林健二、近藤瑞木、齋藤真麻理、佐々木高弘、清水潤、志村三代子、高橋明彦、堤邦彦、常光徹、徳田和夫、永原順子、正木晃、安井眞奈美、横山泰子、大塚英志、徳永誓子、中野洋平、魯成煥

〔海外共同研究員名〕

マーク・オンブレロ、朴銓烈、マティアス・ハイエク

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一三年七月二七日

近藤瑞木「化物絵本と絵手本―黄表紙『武家物奇談』の場

合]

打ち合わせ「成果物作成および国際研究集会について」

日本の時空観の形成

〔研究代表者〕 吉川真司、幹事 倉本一宏〕

〔共同研究員名〕

井上直樹、今津勝紀、上島亨、宇野隆夫、大津透、門井直哉、上川通夫、河上麻由子、神戸航介、佐藤早紀子、下垣仁志、武井紀子、武田和哉、西本昌弘、畑中彩子、林部均、古松崇志、細井浩志、本庄総子、横内裕人、荒木浩、榎本渉、徳永誓子、堀井佳代子、劉曉峰

〔海外共同研究員名〕

井上亘

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一三年六月一日

西本昌弘「日出処の元日朝賀と銅鳥幢」

武田和哉「東アジア地域とその周縁・日本における都城の

方位と占地について」

二〇一三年六月一日

上川通夫「中世的時空観の成立」

荒木 浩「言語のライバシーと物語の三国構想」

堀井佳代子「遣唐使の出発時の儀礼について」

〈第二回研究会〉

二〇一三年八月一七日

宇野隆夫「時空間情報科学からみた日本の時空観」

大津 透「日本古代のオオヤケ構造」

二〇一三年八月一日

本庄総子「税帳と税帳使の年度サイクル」

武井紀子「古代日本の農事慣行と地域社会」

吉川真司「天寿国繡帳の時空」

徳永誓子「絵巻物にみる時間表現―『融通念仏縁起』を素

材に―」

総合討論

夢と表象―メディア・歴史・文化

〔研究代表者〕 荒木 浩、幹事 マルクス・リュッターマ

ン〕

〔共同研究員名〕

安東民兒、池田忍、入口敦志、上野勝之、鍛冶恵、加藤悦

子、河東仁、笹生美貴子、仙海義之、高橋文治、立木宏哉、玉田沙織、林千宏、平野多恵、福島恒徳、藤井由紀子、松園斉、松本郁代、箕浦尚美、室城秀之、木村朗子、伊東貴之、倉本一宏、早川聞多、榎本渉、郭南燕、丹下暖子、中川真弓

〔海外共同研究員名〕

ヨーク・B・クヴェンツァー、李育娟、イヴ・コヴァチ

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一三年五月一日

荒木 浩「近時刊行の『夢と表象』をめぐる研究書・論集

等について」

討論「本年度の研究計画について」

鍛冶 恵「日本のねむり衣の文化誌」

二〇一三年五月二日

立木宏哉「明恵『夢記』における守護というモチーフにつ

いて」

討論「本年度の研究計画について」

〈第二回研究会〉

二〇一三年七月一三日

アグネセ・ハイジマ「Representation of Dream in Muro-machi Period Zen Buddhist Ink Landscape Painting and Gardening Art」

討論「本年度の研究計画について」

高橋文治「神仙の夢―枕中の中国文学史―」

二〇一三年七月四日

上野勝之「平安・鎌倉時代の僧と夢の考察・作業メモ」

河東 仁「元型的表象の発現とイメージ系列化・概念化過程」

討論「本年度の研究計画について」

討論「本年度の研究計画について」

〈第三回研究会〉

二〇一三年九月二日

笹生美貴子「中国語訳『源氏物語』について―夢描写を中

心に―」

討論「本年度の研究計画、出版計画について」

入口敦志「武家の夢―三成、利長、家康―」

二〇一三年九月二日

仙海義之「『仏祖統紀』における〈夢〉及び〈幻覚〉の記述」

松園 斎「中世後期の日記の夢―日記の変質か、夢の変質

か?」

討論「本年度の研究計画、出版計画について」

建築と権力の相関性とダイナミズムの研究

〔研究代表者 御厨 貴、幹事 井上章一〕

〔共同研究員名〕

五十嵐太郎、池内恵、小宮京、佐藤信、砂原庸介、手塚洋輔、中村武生、牧原出、松宮貴之、奈良岡聰智、ウィーベ・カウテルト

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一三年五月二五日

松宮貴之「政治史料としての『書』の意味に就いて」

中村武生「近世大名屋敷と家臣居所―豊臣三都から幕末京都へ―

〈第二回研究会〉

二〇一三年七月二五日

砂原庸介「庁舎と地方政治―県庁所在市の分析から」

小宮 京「大阪財界の挑戦」

昭和四〇年代日本のポピュラー音楽の社会・文化史的分析―ザ・タイガースの研究

〔研究代表者 磯前順一、幹事 井上章一〕

〔共同研究員名〕

浅尾雅俊、飯田健一郎、小野善太郎、柿田肇、金谷幹夫、黒崎浩行、中村俊夫、永岡崇、藤本憲正、松本清、水内勇太、倉本一宏、細川周平

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一三年五月一日

磯前順一「ファニーズからタイガースへ」

飯田健一郎、水内勇太「タイガース現象―ファン投票にみるザ・タイガース」

藤本憲正「タイガース年譜のデータ」

永岡崇ほか「雑誌記事の目録データ」

黒崎浩行「タイガースのデータ形成について」

〈第二回研究会〉

二〇一三年七月六日

磯前順一「ザ・タイガース 世界はぼくらを待っていた―全資料から見たその青春」

飯田健一郎 『昭和四〇年代日本のポピュラー音楽の社

会・文化的分析』フィールドワーク ザ・ファニー

ズ(タイガース) 『青春の思い出の地巡り』(二)―三

つ子の魂、百まで―

飯田健一郎、水内勇太、藤本憲正 「年譜の社会的出来事欄

について」

〈第三回研究会〉

二〇一三年九月九日

金谷幹夫、中村俊夫 「研究状況の進展」

飯田健一郎、水内勇太 「大阪時代のザ・タイガース(明月

荘の写真、ナンバ一番跡地等)」

磯前順一、金谷幹夫、中村俊夫、小野善太郎 「原稿『世界

はボクらを待っていた』の改訂について」

二〇一三年九月一〇日

中村俊夫 「タイガースDVDについて」

近代日本における指導者像と指導者論

(研究代表者 戸部良一、幹事 瀧井一博)

〔共同研究員名〕

五百旗頭薫、猪木武徳、小川原正道、河野仁、黒澤文貴、

佐古丞、佐藤卓己、庄司潤一郎、武田知己、中西寛、野中

郁次郎、波多野澄雄、楠綾子、奈良岡聡智、牛村圭、松田

利彦

〔海外共同研究員名〕

黄自進、フレデリック・デイキンソン

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一三年五月一日

瀧井一博 「伊藤博文の政治指導における知と制度」

朝霧重治 「地方×スモール×グローバル×グローバルとベ

ンチャー精神の企業経営―COEDOビールのケース

を通じて―」

二〇一三年五月一二日

黒沢文貴 「海軍軍人としての鈴木貫太郎」

波多野澄雄 「政治家としての東條英機」

徳川社会と日本の近代化―一七〜一九世紀における日本の文

化状況と国際環境―

(研究代表者 笠谷和比古、幹事 佐野真由子)

〔共同研究員名〕

磯田道史、伊藤奈保子、岩下哲典、上村敏文、魚住孝至、

大川真、加藤善朗、上垣外憲一、郡司健、小林龍彦、小林

善帆、菅良樹、高橋博巳、武内恵美子、竹村英二、谷口

昭、芳賀徹、長谷川成一、原道生、平井晶子、平木實、藤

實久美子、前田勉、松山壽一、宮崎修多、宮田純、森田登

代子、横谷一子、横山輝樹、米沢薫、脇田修、和田光俊、

滝澤修身、辻垣晃一、伊東貴之、瀧井一博、フレデリッ

ク・クレインス、姜鸞燕、ウィーベ・カウテルト

〔海外共同研究員名〕

平松隆円

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一三年四月二六日

笠谷和比古「本年度研究会の方針―幕藩制社会の時代区分

論―

脇田 修「近世大坂の歴史の流れ」

二〇一三年四月二七日

小林善帆『『槐記』にみる一八世紀初・中期の文化様相』

横山輝樹「徳川幕府享保改革における武艺奨励の意義」

上垣外憲一「ボサドニック号事件と勝海舟」

総合討論

〈第二回研究会〉

二〇一三年六月二八日

フレデリック・クレインス「オランダ商館日記にみる日蘭

関係の実情 ワーヘナールの江戸参府日記を中心に」

前田 勉『江戸前期の学校構想』―山鹿素行と熊沢蕃山

との対比―

二〇一三年六月二九日

股座真実子「徳川政権における坊主衆―医者・同朋・茶道

―の成立」

小林龍彦「中根元圭・建部賢弘と江戸幕府」

宮崎修多「大田南畝研究の現在」

総合討論

〈第三回研究会〉

二〇一三年八月二三日

藤實久美子「武鑑編集の情報源」

松山壽一「近代科学と自然支配の理念」

二〇一三年八月二四日

岩下哲典「会津戊辰戦争の戦後処理問題―松平容保家族の

処遇を中心に―」

郡司 健「天保〜嘉永期における萩藩の西洋兵学受容と大

砲技術」

総合討論

討議「報告論集作成方針」

日本仏教の比較思想的研究

〔研究代表者〕 末木文美士、幹事 稲賀繁美

〔共同研究員名〕

阿部仲麻呂、井上克人、冲永宜司、坂井祐円、坂本慎一、

佐藤弘夫、島蘭進、ミシェル・ダルシエ、永井晋、中島

隆博、西平直、西村玲、モリー・ヴァラー、シルヴィオ・

ヴィータ、藤田正勝、前川健一、吉永進一、米田真理子、

阿部泰郎、アントン・セビア、高橋勝幸

〔海外共同研究員名〕

アンナ・アンドレーワ、鄭濠、許祐盛

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一三年五月一日

末木文美士「趣旨説明」

アンナ・アンドレーワ「三輪山に於ける密教僧と聖の活

動」

鄭 濠「韓国における日本近世古典人文学資料の翻訳出

版および研究の動向」

〈第二回研究会〉

二〇一三年七月一三日

モリー・ヴァラー「夢窓疎石の『正覚国師和歌集』—その

周辺と思想の表現」

阿部仲麻呂「『無』をめぐるキリスト教神学と仏教との比

較研究」

末木文美士「比較思想からみた日本思想」

〈第三回研究会〉

二〇一三年九月二一日

西村 玲「東アジアにおける日本近世仏教—排耶論と不殺

生思想—」

坂本慎一「西田幾多郎、高神覚昇との比較から考える松下

幸之助の思想の位置づけ—実業家の思想と『哲学』の

関係—」

冲永宜司「『生命』はどこにあるのか—ベルクソンの『跳

躍』と西田の生命論を手がかりとして」

二一世紀一〇年代日本文化の軌道修正…過去の検証と将来への提言

〔研究代表者〕 稲賀繁美、幹事 牛村 圭

〔共同研究員名〕

テレングト・アイトル、鵜戸聡、大西宏志、小倉紀蔵、鞍田崇、呉孟晋、小崎哲哉、近藤高弘、澤田敬司、全美星、戦暁梅、千葉慶、西田雅嗣、西原大輔、波嵯栄ジュニファ、しょう子、橋本順光、林洋子、範麗雅、平松秀樹、平芳幸、浩、藤原貞朗、シルヴィー・ブロッソ、クリストフ・マルケ、三原芳秋、本浜秀彦、山中由里子、山本麻友美、與那覇潤、マシュー・ラーキング、李建志、渡邊淳司、滝澤修身、張競、中村和恵、山田奨治、劉建輝、磯前順一、榎本渉、フレデリック・クレインス、森洋久、長門洋平、朴美貞

〔海外共同研究員名〕

大橋良介、デンニツァ・ガブラコヴァ

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一三年四月二六日

研究会への提言・提案

森 洋久「情報を考える 文字情報と図形情報『地図情報・測量と経緯度グリッド―図形情報処理の近未来』」
丸川雄三「情報を考える 文字情報と図形情報『連想情報学と想・imagine―図形情報検索の将来展望』」
コメントーター…山田奨治

自由討論・意見交換

二〇一三年四月二七日

李建志「三つの開拓村―パラオ引揚者たちの戦後」

討論

〈第二回研究会〉

二〇一三年七月二八日

長門洋平「イメージに『裏側』は存在するか―映画におけるポスト『表層批評』の射程」
北浦寛之「映画テキスト分析の手法―加藤泰監督『幕末残

酷物語』(一九六四)を題材に」

自由討論・意見交換

二〇一三年七月二九日

稲賀繁美「『日本の建築』はどこへゆく パリでの講演から」

討論

〈第三回研究会〉

二〇一三年八月三一日

三原芳秋「人文学の生態学的転回(エコロジカル・ターンのために)」

高梨克也「生態学的に妥当なコミュニケーション研究にむけて」

岡本雅史「共同注意と人称構造…生態学的転回を迎える認識言語学と語用論」

三原芳秋「Personのカテゴリ―文学理論の生態学的転回にむけて」

赤嶺宏介「現象と物自体…カントと哲学の生態学的転回」
松嶋 健「アニミズムとパーソン…人類学における生態学的転回の深度」

コメント…稲賀繁美

自由討論・意見交換

〈第四回研究会〉

二〇一三年九月六日

日文研公開講演会聴講

討論「講演会の話題をめぐって」

二〇一三年九月七日

デンニツァ・ガブラコヴァ「翻訳とアイデンティティ」

小倉紀蔵「第三の生命…東アジアの伝統からさぐる…」

万国博覧会と人間の歴史―アジアを中心に

〔研究代表者 佐野真由子、幹事 井上章一〕
〔共同研究員名〕

石川敦子、市川文彦、伊藤奈保子、鵜飼敦子、江原規由、川口幸也、神田孝治、中牧弘允、芳賀徹、橋爪紳也、林子、武藤秀太郎、稲賀繁美、瀧井一博、ジョン・ブリン、劉建輝、朴美貞

〔海外共同研究員名〕
青木信夫、岩田泰、ウィーベ・カウテルト、徐蘇斌

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一三年五月一八日

論集作成に向けた各自のテーマ案

討論

二〇一三年五月一九日

論集作成に向けた各自のテーマ案

今後の研究会の進め方

〈第二回研究会〉

二〇一三年八月四日

EXPO'70 パビリオン見学

解説・橋爪紳也

万博遺跡外視察

大林組・電通制作による大阪万博レア映像上映、自由討論

二〇一三年八月五日

株式会社乃村工藝社資料室視察

解説・石川敦子

植民地帝国日本における知と権力

〔研究代表者〕 松田利彦、幹事 瀧井一博

〔共同研究員名〕

飯島渉、小野容照、加藤聖文、加藤道也、川瀬貴也、河原林直人、栗原純、愼蒼健、通堂あゆみ、春山明哲、洪宗郁、松田吉郎、宮崎聖子、やまだあつし、吉川絢子、李昇燁、中生勝美、稲賀繁美、劉建輝、朴暎美

〔海外共同研究員名〕

陳延媛、李炯植

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一三年九月七日

松田利彦「共同研究『植民地帝国日本における知と権力』

の狙い」

各自の研究と問題意識

「心身／身心」と「環境」の哲学―東アジアの伝統的概念の再検討とその普遍化の試み―

〔研究代表者〕 伊東貴之、幹事 榎本 渉

〔共同研究員名〕

青木隆、新井菜穂子、井上厚史、恩田裕正、垣内景子、片岡龍、橋川智昭、権純哲、黒住眞、桑子敏雄、河野哲也、小島毅、鈴木貞美、関智英、銭国紅、高橋博巳、竹村英二、竹村民郎、田尻祐一郎、陳継東、陳健成、土田健次郎、永富青地、西澤治彦、長谷部英一、林文孝、松下道信、水口拓寿、横手裕、李梁、末木文美士、ジョン・ブリン、劉建輝

〔海外共同研究員名〕

フレデリック・ジラルド、黄海玉、張翔、手島崇裕

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一三年五月一日

銭 国紅「東アジアの近代化と文化転換―二〇年代中国の
新文化構想を読む」

竹村英二「江戸後期〜幕末漢学の学問方法―近代知性の醸
成要因として」

総合討論

〈第二回研究会〉

二〇一三年六月二十九日

フレデリック・クレインス「蘭学者が西洋医学の機械論的
身体観をどのように理解したか」

河野哲也「拡張した自己の境界と倫理」

総合討論

二〇一三年六月三〇日

橘川智昭「唐代唯識思想の心身観―習気と仏性の視点から
―」

総合討論

日本の教育文化の複数地域展開に関する比較研究―ブラジ
ル・フィリピン・ハワイ・アメリカの日系教育史を中心に―

(研究代表者 根川幸男、幹事 井上章一)

〔共同研究員名〕

浅野豊美、飯窪秀樹、伊志嶺安博、大浜郁子、カール呉、
小林茂子、坂口満宏、佐々木剛二、住田育法、高橋美樹、
中原ゆかり、中村茂生、西村大志、東悦子、松盛美紀子、
物部ひろみ、森本豊富、柳下宙子、吉田亮、細川周平、石
川肇

〔海外共同研究員名〕

小林ルイス・オタビオ眞登、野呂博子

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一三年四月三日

根川幸男、井上章一「共同研究の概要と日程」

坂口満宏、浅野豊美「福島移民と移民・産業遺跡」

二〇一三年四月四日

根川幸男「日系移植民史の時代区分―『連動史』を描くた
めに―」

史跡見学

〈第二回研究会〉

二〇一三年六月一五日

渡部宗助『在外指定学校』から見えること、言えること」

物部ひろみ「戦間期ハワイにおける教育活動と日系社会の

形成」

エドワード・マック「シアトル版日本語讀本」

〈第三回研究会〉

二〇一三年八月三〇日

おけいの墓見学

西村大志「衣からみる移民―身体技法との連関から―」

中村茂生「移民の生活と『修養』」

二〇一三年八月三一日

飯窪秀樹「一九三五年以降の海外興業株式会社の帰趨」

伊志嶺安博「日系ブラジル人子弟に対する日本語教育の変

遷」

聖州義塾創立者ゆかりの地他見学

打ち合わせ「今後の研究会開催と成果出版など」

二〇一三年九月一日

根川幸男「会津・福島からの挑戦―戦前期の海外雄飛と移

民―」

打ち合わせ「今後の研究会開催と成果出版など」

マンガ・アニメで日本研究

〔研究代表者 山田奨治、幹事 荒木 浩〕

〔共同研究員名〕

飯倉義之、石田佐恵子、伊藤慎吾、伊藤遊、岩井茂樹、岡

本健、金水敏、白石さや、山中千恵、山本冴里、油井清

光、横濱雄二、吉村和真、谷川建司、北浦寛之、小泉友

則、高馬京子

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一三年七月二七日

山田奨治「作品検討 TVアニメ『魔法少女まどか☆マギ

カ』(二〇一三)」

スクリーニング「TVアニメ『たまこマーケット』

(二〇一三)とその関連映像」

〈第二回研究会〉

二〇一三年九月二一日

岡本 健「作品検討 TVアニメ『らき☆すた』(二〇〇七)、

『けいおん!』(二〇〇九)」

スクリーニング「アニメ映画『TATSUMI』(二〇一三)」

新大陸の日系移民の歴史と文化

(研究代表者 細川周平、幹事 瀧井一博)

〔共同研究員名〕

赤木妙子、アンジェロ・イシ、桑井輝子、栗山新也、小嶋茂、佐々木剛二、スエヨシ・アナ、高木(北山) 眞理子、滝田(石井) 祥子、竹村民郎、日比嘉高、松岡秀明、水野眞理子、フェリッペ・アウグスト・ソアレス・モッタ、物部ひろみ、森本豊富、守屋貴嗣、守屋友江、柳田利夫、吉田裕美、早稲田みな子、高橋勝幸、根川幸男、エドワード・マック

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一三年四月一三日

守屋貴嗣『『あるぜんちん日本文藝』について』

アンジェロ・イシ「在日ブラジル系メディアの低迷と文学

の夜明け」

討議「今年度の研究会の概要について」

〈第二回研究会〉

二〇一三年七月六日

守屋友江「日本仏教から日系アメリカ仏教へ―一九二〇年

代々一九六〇年代の変化から見えてくるもの」

松岡秀明、エドワード・マック「細川周平著『日系ブラジ

ル移民文学Ⅰ・Ⅱ』

〈第三回研究会〉

二〇一三年八月八日

高知県立歴史民俗史料館、竹村植民商館関係資料、高知県

立図書館他視察

講演・細川周平

二〇一三年八月九日

土佐市図書館視察

森田友和、中村茂生「土佐市と移民」

土佐市移民関係史跡(西原清東生家他) 見学

青野 博「ジョン万次郎と仲間たち」

ジョン万次郎関係史跡見学

水野龍関係史跡(水野龍記念碑他) 見学

二〇一三年八月一〇日

高知市立自由民権記念館(展示解説他) 視察

日記の総合的研究の総括

(研究代表者 倉本一宏、幹事 榎本 渉)

〔共同研究員名〕

有富純也、板倉則衣、井原今朝男、今谷明、磐下徹、上島
 享、上野勝之、尾上陽介、小倉慈司、加藤友康、久富木原
 玲、古藤真平、近藤好和、佐藤信、佐藤全敏、下郡剛、末
 松剛、曾我良成、中村康夫、名和修、西村さとみ、カレ
 ル・フィアラ、藤本孝一、古瀬奈津子、松蘭斉、三橋順
 子、三橋正、森公章、山下克明、吉川真司、中町美香子、
 荒木浩、井上章一、堀井佳代子、劉曉峰

〔研究発表〕

〈第一回研究会〉

二〇一三年六月一五日

打ち合わせ「原稿の進捗状況について」
 堀 忠雄「入眠期の夢とレム睡眠の夢」

基礎領域研究

古文書研究（継続）

代表者 笠谷和比古

概要 前近代の草書文字で記された古文書や日記・記録な

どの読解を行う。

近世風俗未公刊資料解読（継続）

代表者 早川聞多

概要 センター所蔵の近世風俗資料の解読および変体仮名
 の解読演習を行う。

フランス語運用の基礎／応用（継続）

代表者 稲賀繁美

概要 フランス語の運用の基礎を実践的に訓練し、あわせ
 て必要に応じて論文講読、仏文論文作成の手ほどきをする。

韓国語運用の基礎／応用（継続）

代表者 松田利彦

概要 研究その他の業務で韓国語を必要とするものに対
 し、会話、読解、聴解の習得を目指した授業を行う。

中国語運用の基礎／応用（継続）

代表者 郭 南燕

概要 研究その他の業務で中国語を必要とする人に対し
 て、中国語運用の基礎を実践的に訓練し、会話、読解、聴
 解の習得を目的とする。